

時は戦国
ところは南都

先の大乱より
百年たちますが
世はまだまだ
おさまりませぬ

巫女の口
ききなさらんかえー

巫女の口
ききなさらんかー

ここか？
有難い歩き巫女様の
いてはんのは

あ
ご祈禱ですか？
口寄せですか？

明日オカンが
竈の御祓いをつてな
ありがとうございます

しかし今日は俺に
夜のご祈禱頼むわ

今もおふたかた
お祈り中ですが
お相席でも？

…かしこまり
ました

はい
もうおひとかた
ご勧進ー！！

はい…

陽物の気を増す
特別な
ご祈禱です

子孫繁栄
精力回復

諏訪のタケミナカタ様
白山のククリヒメ様が
きつと叶えて
くださいますわ

忍ぶれど艶は

戦国の世に隠れ咲く
妖艶淫蕩の花、
乱れる

商業誌
初登場!!

晴永牧兔
HARENAGA MAKITO





まだ遊郭と言うものが
発展していなかった
この時代
農民たちに
春を売っていたのは
主に諸国漫遊の芸人や
巫女たちでした



※現在1565年初夏
先日、松永久秀と三好氏で
足利将軍を暗殺したところ。



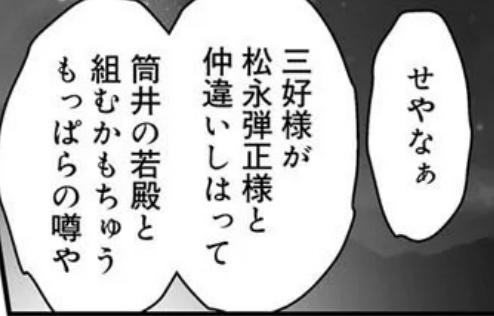
色が白うて
綺麗やのう
さすが雪国の
女はちやうわ

おそろも最高
ホンマ定命が
のびる心地やで



…となると
この郡山界限も
また戦ですな

ホンマみい
迷惑な
こっちゃやで…



せやなあ

三好様が
松永弾正様と
仲違いしはって
筒井の若殿と
組むかもちゆう
もっぱらの噂や



ずっとこうして
歩いたはんの？
今のご時勢
危ないやろに
ええまあ…
どうなんです？
最近ここらは



子種
いっほい…

うわ
また出る…

みい = 大和弁間投詞
～なあ、程度のニュアンス
おそろ = 大和弁で女陰の事



そんな話しか
得られなかったわけ？

仕方ねえだろ
所詮村の
噂話だけ
報告は
回しとくが…

てか
お兔野！
一張羅着たまま
すんなつてるだろ

いいでしょ
別に

ねー足揉んでよ
今日はよく
歩いたしー



ったく
おめえは…

商売道具は
大切に
するもんよ

あーもう
よく洗ったのに
まだ中から
出てくるわ



孕むんじやねえぞ
商売あがりたりだ

大丈夫よオ
あんたが育てて
くれんでしょ？

他人のが嫌なら
あんたの子種で…
追いだしいい

まだし足りねえか
色狂いの淫売が

っさいなあ
惣介は
そう仕込まれ
たんだもの
仕方ないでしょ



戦でみなしごになった
ところを拾われて…

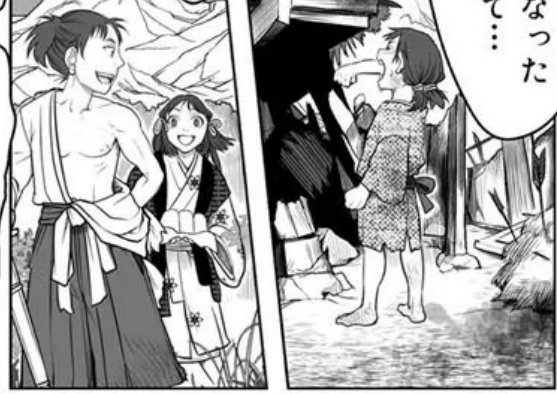
淫売に
仕立てるため
育てられた

あんたも…
あの里の者の癖に

ずっと…
一緒だった癖に…
わかって…んでしょ

今更…

他の道
なんて…っ



あんたは…っ
あるかも
知れないけどさ…

今日…だって
村娘に色目
使われててさ…

夫婦でも…
なんでも
なっちまやいい

あんた…
なんて

バカ言ってるよ
また術で足腰
立たんぐらい
搾り取ってやるぞ



…ねーよ
んなもん

だめ
明日も
仕事…っ

じゃあ誘うな
馬鹿





惣介…の
惣介の
欲しいのお
あたしので
イッてよお

あ…っ
熱いの
いっばい…っ



惣介…
惣介の
奥っ
もっ
いっ



射精してよ…
だめ…だ
出して
お願い
頂戴よ
腔内…
ほっ
あ…っ



だ…め
これ以上
イク…っ

なんでこんな
…あんなのだけ
あんなの
ち○ぼだけ
あっ
突き上げちゃ
だめっ



すぐイッたら
術にならんのだろ
腰が甘えぞ
気い入れて
イかせてみるよ

惣介…
いっよ
あーん
いっよ
あーん



そんな簡単に
いくなつて
言ってるんだろ
バカ

そんなこつちや
男は
たらしこめねえぞ！

は…ひい

ご…ごめ

ごめん…っ

でも…

あなたの…
凄…い…の…お

今日も
俺の勝ちだな
ま○こに
欲しかったら
ちゃんと先に
俺をイカせろって
言ってるんだろ？

ん？



ひろ…い

ひどかねえ
これも俺の役目だ

まったく
俺が鍛えて
やらんとなあ…
おめえは



…そのように
私達はずっと
一緒にいる

諸国を巡り
男を取って
その後抱き合う

監視…
術の修行
様々な理由をつけて

これが
私達に定められた役目
やめられるはずもない
だったらこれでいい

どんな想いが
あつても
言つべきでない

私達は「忍び」のものなのだから

来た？

ああアレだ

供も一人…
伝言通り

支度はいいか？
お兎野

？ 神職は
居らぬ筈では…

おや？

何やら
笛の音

すっかりこの社も
さびれておるなあ

悪党が巢食って
おったとか…

しかしここにとの
御母上のお奨め
参りましょう

！ おお…

これは
見事な

これは
良いものを
見た

美しい神楽舞を
こんなところで
見られるとはな

この御社の
あわれなさまに
ついひとさし…

旅の巫女か？
そちらの笛も
見事で
あったぞ



お待ち申しました

若様の戦勝祈願を
お手伝いするよう
仰せつかりました

これより
奥で特別に
ご祈禱させて
頂きます

なるほど
では

御伴の方には
お待ちの間
御神酒をどうぞ

真っ暗
じゃのう

お待ちを…
今窓を

ではまず
衣をすべて
お脱ぎ下されませ

なっ!?
何っ!?

さ
早う

若様の金摩羅に
見事いくさ神の
御加護を下します

この蜜壺に
存分に矢を

そ…そういうことか!
しゃあしゃあと…

ならば事情も
知っておるだろうが!

こ…これも
母上の仰せか!

あら…
おなごの肌の
見はじめでも
ありますまいに



ええ…でも
とかくは申しませぬよ

お察し
申しますぞ
そうそう
ぐいっと
『酒に対しては
当に歌うべし
人生幾何ぞ』

曹操か…
『何を以て憂いを解かん
唯だ杜康有るのみ…』

おのこ同士は
武家の一種のおん嗜み

ただそれだけでは
新妻様が御不憫と
案ぜられての事…

(曹操「短歌行」)

わかっておる！
しかし程なく出陣
万一あらば…

痛い思い出ばかり
妻に遺すは不憫ぞっ
最初のうちは
痛いのであろう!?

ええ…
まあ多少は

でも想うお方のなら
何ほどの事も…

何より夫たる人に
抱いてもらえぬ方が
後々までかなしいもの

そこで若様への
その道の御指南を…と
仰せつかりました

なに…
恐れることなど
御座いませぬ

抱いて…
くださりませ

さもなくば私が
御母上様に御勤気を
蒙りまする…



熟す前の娘御は
一層ゆっくりり時をかけ
ほぐしてやらねば

もっとぴたりと
寄り添って…

おのこの体熱で
おなごは蕩けるのです



あ…っ

そう…
やさしく

花に触れるが如く…



さすれば
し…次第に
このようにっ

あられもない
声を…っ



め…
面妖な気分にな
ってきただぞ

急いではなりませぬ

挿れたい 挿れたいと
思い擦り付きなされ

女の側も
それでだんだん
覚悟が決まりまする

ひなさき=クリトリス



時に弱く
時に強く…

よ…よう御座います
もっと…
ひなさきを
そこっ

あ…っ
あ…っ
あ…っ



あ…っ
だんだん…
強く…っ

あ…っ
浅く…指入れてえ

こ…
ここか？

あ…っ



あ…っ
あ…っ
あ…っ



強引に
押さえつける
ばかりで…っ

挿れようと
するばかりで…っ

お…御上手ですっ
普通はじめては
がつつくばかりで
とてもこうは…っ

ど…どうじゃ？



わ…
わしももう
挿れたい…
女というものに
入れてみたい！

ど…どうぞ



あ
ああ
くる…っ！



手と口で優しく
なだめつつ…
奥までゆっくり

ご…御手帳を



あ…っ
若様…
もつと
ゆっくり

うあ…っ

おのこ同士も
はじめては痛う
ございましたらう
それと同じ…

はじめて…なら
このあたりで詰まって
痛いと言きますが…

あみあみ

んみみ



ふふ…
初夜の稽古は
ここまで

あとは
おなごの良さを
とくと味わって
頂きましょう



闇雲に
奥だけでは
いけませぬ…っ

ああっ
そこです…

そう…っ

あああっ

み…見てっ
聞いてっ

わ…わたくしの
感じている…ところを

互いに目をあい交わし
息を合わせることが…
それが夫婦の情を
育てるのです…っ

あう

ぐちよぐちよと…
円を描き
かきまわして…っ

そう…
奥…っ

いいっ
いいですう

わ…儂のは
そんなに良いかっ!?

はっ
はいいっ♡

あ…
あめん

あめん

あめん

はあめん

あめん

じゅぽん

じゅぽん

じゅぽん



い…いかがです
女は…女は
気持ちよう
ございますか!?

腰が…
勝手にツ♥

わしも
もうっっ…っ

あっっっ!

わ…わしも

あああ



美味し…

なんて
濃い子種…♥

はあ…
凄…っ

若様…の
子種…っ

どろどろ…
汚されてるう…♥

んっ
お家繁栄
間違い
ありませぬ…

あま

うお…っ

まだこのように
ビクビク熱い…





今…何か?
ああ…また
欲しゅうなって
参りました

早く…う

若様ので
昇天させてえ…っ



な…なぜ
外に…

膾はいけませぬよ
万一…子ができたら

女がこれ程
よいものとは…

もういっそ…
そちを側室に



ああ…ん
若様あ

うお…っ
いい…ぞ

先程より
もっと…っ

若様の
逞しい摩羅…

奥…抉って…
下さって…るう

そ…そこ
突いてええ

いいっ

そ…う
もっとおっ

あハッ
ハハハハ



あああ
あああ
あああ
あつ!

あつ...
い...気持ち...っ

若...
ああ...っ
そう...っ
そう...
そこ...っ



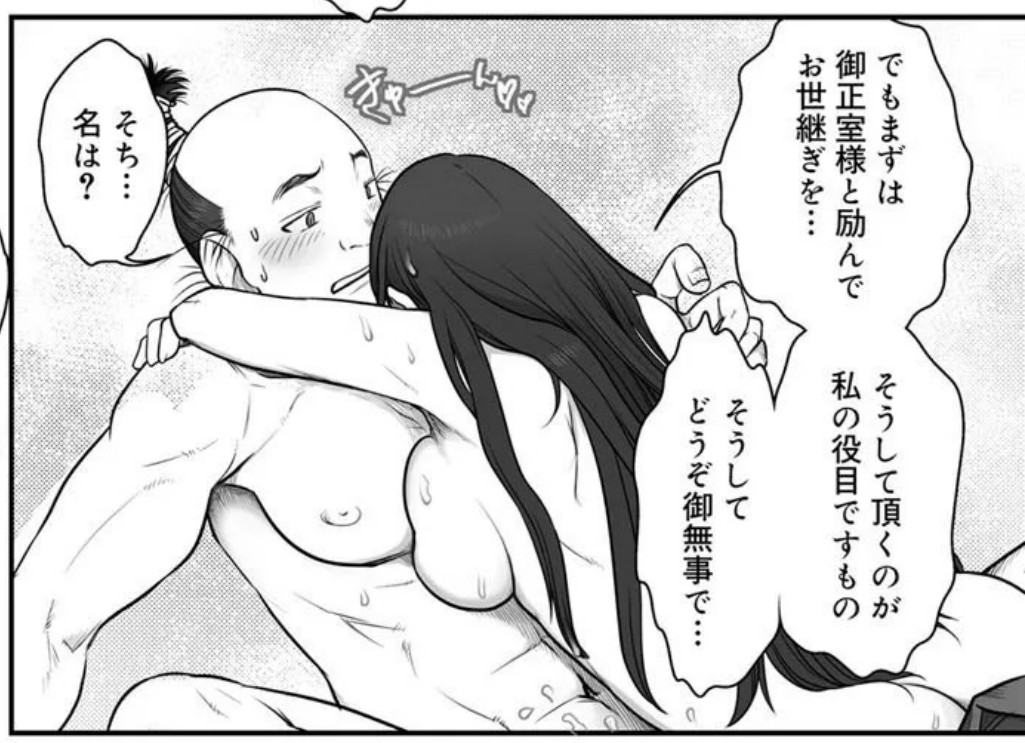
またお会い...
できますか? ...
私は旅の巫女...
大それた事など
望めませぬが
また抱かれとう
ございます...

まだ...
まだ足りませぬ
まだ若様が
欲しい...

いったか?



...たつ
たつ...と
ああ
たつ!
まだ...



そち...
名は?

でもまずは
御正室様と励んで
お世継ぎを...
私役目ですもの
そうして
どうぞ御無事で...



たつ... たつ...

また...

また射精る

頼む... 今度は膣なかにつ

だめ

だめ わかさまあ

いけませぬ 孕はらんじゃ...

で...でも いいっ♥

犯される...の 好きだいいっ♥

あ... あ...

で...射精でるっ

だめえ 外そと...外そとにかけてっ



あ...

あ... あ...

あ... あ...

あ... あ...

あ... あ...

：おう 待たせたな ご側室様



ご苦労
おたつ殿

…どうした

…思い出しちゃった



やめてよ
んなつもりないわよ

ちゃんと
帰ってつたぞ
…報告か？

心配装ったら
結構べらべらと
喋ってくれたしね
どうよ？この手管



御褒美に
今晚は
臆に出してな

今は
夫婦やもん♥

…しゃあないなあ



…ホント
あの時はがつつく
ばかりで
早漏でねえ

…ねえ
惣ちゃん

つせえな
お兎野

今は
違うだろが



はいはい
万一追ってくる
いけないし
早く行こ

暫くは商人の
夫婦者なんだから
間違えないでよね

この国の
言葉もね

その昔 武田の命で
諏訪の歩き巫女が
忍びに組織され
情報収集に用いられました

彼女らは明治の頃まで
歴史の裏で
活動していたと
伝えられています



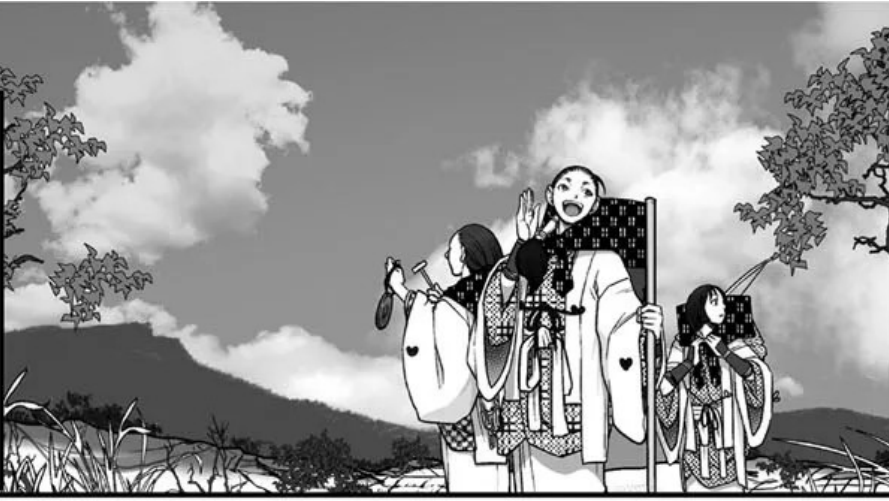
わあつとるわ

…斑鳩へ降りて
宿なり探そか

忍ぶれど艶は★END

かつて戦国の世に
歩き巫女と呼ばれる
流浪の巫女たちが
諸国を巡っていました

彼女らは数人組での
旅の途中で
様々な事を行いました



御札を
配って回ったり
御祓いをしたり
舞を披露したり
占いをしたり

そして
時には…



!?
兎野!?



どうした
腹痛か!?

こら兎野
逃げんな!!
これも
修行だろがっ



あいつ今日が
初めてなもので

…いや…
…惣介

…あんたの子…

永禄の世を彷徨う、
淫蕩の宿命を背負いし巫女—!



再登場!!

晴永牧兔

第六話

忍ぶれど
節は



その顛末を俺が
人伝に聞き知ったのは
今年の夏の兄の葬式

つまり二年も
経っての事だった

あー
惣介若さんだ
お帰んなさあい

おう
田鶴
でかくなつたな
半年ぶりか

永禄6年(1563年)旧暦11月
信州東部・標津氏領



うん今年も巫女衆みんな
無事帰ってきたよ

もちろん
兎野姉ちゃんも

近々望月様の
御館で舞など
ご披露するんだって



どしたの急に
修行は?

親父に
呼び戻されてな
居るか?

ねーよ
みな息災か?

抱主さま?
おられるよ
ねえ
お土産は?



まだ腹決まらんか
惣介よ
長男が死んだ以上
次男のお前が家業を
継ぐのは当然だろう



今お稽古中だよ
…会ってかないの?

…?

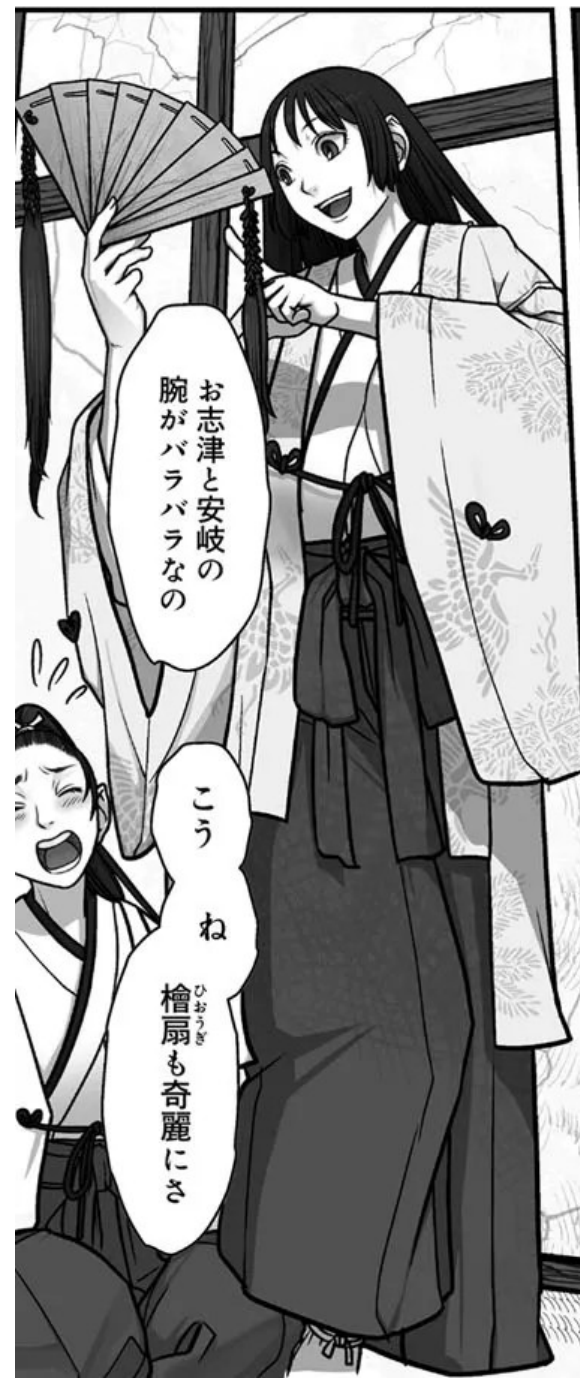


縁あって
望月の奥方様にお前と
巫女見習らを差し出し五年

これからますます
本腰で歩き巫女を
育てよとのお言葉だ
しかしわしも体が…



しつこいな
望月様のお役目って
もんがあるって
言ってるんだろ
跡継ぎなら
弟も…



お志津と安岐の
腕がバラバラなの

こう
ね

ひおうぎ
檜扇も綺麗にさ



駄目
もう一回よ



そうだよ惣

忍びなんて辞めて
ここに戻っておいで!

断る!

巫女を束ねる
抱主が要るのだ!

望月様には既に
願ひ出てある
許しも出よう



もう
いいじゃない
お兔野



惣!
お待ち!

もう行くのかい
せめて晩飯くらい…
そんな薄着で



もーいいっ
恥かくのは
あんたらだし

あんゴメン
また夕餉の
後にしよ



これだけ
ちやんと
やってみてよ

折角
一番の
稽古
しるんだし

兎野は芸事となると
こうなんだから

どうせ
本題はアレで
舞はついでなのにな



あら
惣介さんだ
修験からお帰り？

…ああ
もう行くけどな



…よう

正月以来か
お兎野

望月様の
宴に行くってか？



かかさま
晩なあにく？



…うん
修行明けのご披露で
舞をね

あなたは？
呼ばれてないの

武田のご家中も
大勢来る宴に
招かれる立場かよ

…そう





俺に？
館に來いと？

…が

その縁で甲賀から
千代女姫を迎え
跡継ぎと娶わせ
縁を深めていました

望月氏は古來
この地方の馬牧を
司つてきた名族で

甲賀の忍びの長
望月家もこの一族の
流れを汲んでいます



宴の最中だろ
なんでまた

知らんよ
身なり整えて
來いとさ

師匠が



お前は
千代女様の
お氣に入ら
なものな

あーあ
顔が良いのは
得だね

よせ
盛清



お師匠
惣介罷り越しました

おう暫し待て

今千代女様は
取り込み中ゆえ



あっ
…？



巫女どもの舞は
如何でしたでしょう

こちらに嫁^かしてより
育て鍛えて参りました

亡き夫に代わり
千代女はいよいよ
これらのものを使い
武田の御為に働く
所存でございます

ではこれらにて
更なるご接待を…



年明けから
巫女仕事の中で
諸国で窺見働きを
してもらおうゆえ



ああ…っ

気持ちよう
ございまする

あつ
もつと
思うさま
突いてくださりませえっ

来ておったか
今朝になって
思いついてな

どうした
青い顔で



お前の父御に
頼まれたのじゃぞ？

お前を三つ者から外し
家を継がせてくれと
…どういうつもりじゃ？



接待が終わらば
皆に引き合わせよう
この巫女どもを束ねる
館の跡取りとしての



失礼！

！？
惣介！？

！？ 待ちや！



忍ぶれど
色に出でにけり...とは
よう言うたもの

この千代女を
侮るでない

好いた女子が
他の男に抱かれるのを
見て居られんと
言うのかえ？

ほほ
可笑しい事

あの女子は
芯から淫蕩

わけでも房術では
一番役に立とうと
目をかけておるのに



三つ者にせなんでも
歩き巫女なら
春をひさぐ
ものではないか

お兎野は...そうです

それを期待され
拾われたもの...

だから家を
継ぎたくない

それで稼いだ金で
暮らすなど...

惣介
聞き分けの無い!



それゆえ...
せめて三つ者として
鍛え使っていただけなら
十三よりお使えしてきました

それを今更...!!

せめて
それなら...!

ここは冷える...

...続きは
部屋で聞こうぞ

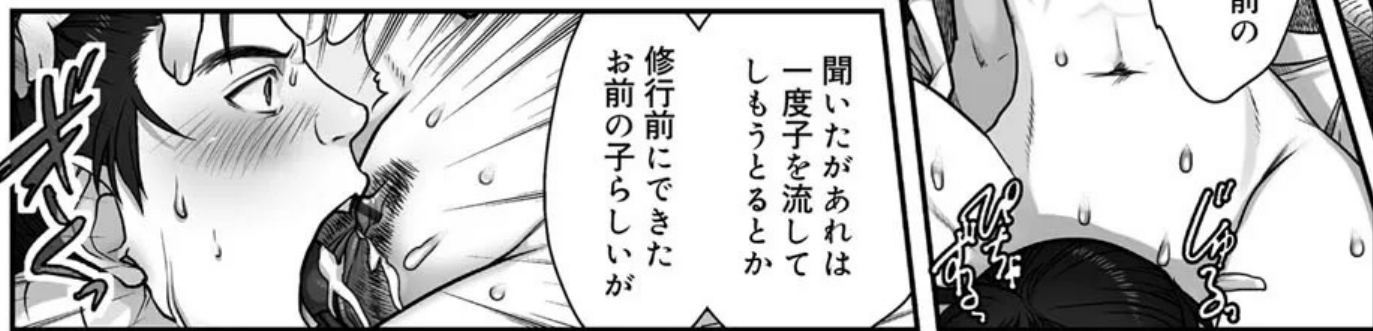


：それもならん
あれにはひと働き
してもらわねば

やすやすと今お前の
嫁になどやれん

本人も
妹を巫女にせん
代わりにと
応じるそうなの

ほれ
聞いて欲しくば
もっと狗のように
舐めてみや



聞いたがあれは
一度子を流して
しもうとるとか

修行前にできた
お前の子らしいが



おや
なんじゃその
哀しげな顔は

そんなに
想いあって居ったか

ええ？
幼き頃より？

勃たせよ！
満足させい
よき事を
思いついた

地獄のつとめと引き換えに
お前とあれに
定めに縛られぬ将来を
与えてやろうぞ！



い…一度きりです
もう御戯れは…

ほほ
口惜しい事！
夫亡き後度々
無聊を慰めてくれた
お前がのう！





肌を重ねるがゆえ
女の忍びには
常々相手に情を移し
裏切る危険が付きもの

其方がそれを
阻止できよう

其方の摩羅で
飼いならし
言う事全て
聞かせるようにせよ

一緒に…
旅？

あつ

あ…っ

掻きだしちゃ
だめえ

いっばい
でちやうう

そうだ



やつ…

やだあ
はい…って

や…
惣の…
ち○ぼ
あ…っ



!?

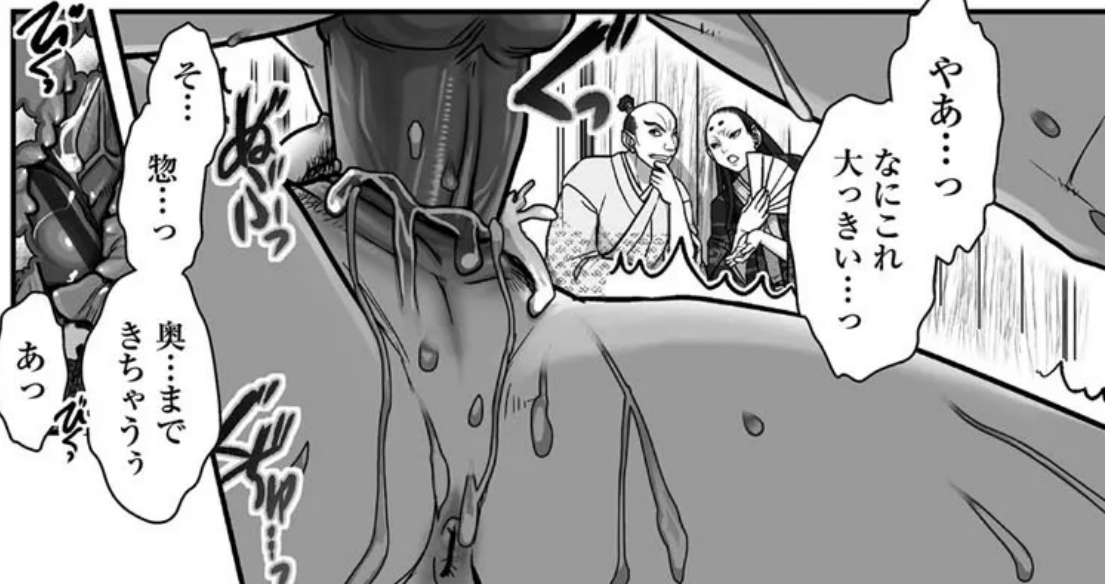
!? いやっ



入っ…
ちやうた

…入ってる

あああ…



やあ…っ
なにこれ
大っきい…っ

そ…
惣…っ
奥…まで
きちやうう

あつ



何だ
これくらいで
本当に修行
してきたのか!?

ぽんぽん

おかしいの
感じちゃうの
体が...
びりびり...

おあッ

く...るっ
奥っ

あッ
んあッ

惣
激し...っ
また
いっっちゃううっ

違うっ
へんなのお

おあッ
びんあッ



望むなら
いくらでも
抱いてやる

だが俺が
見つけた客にも
抱かれてもらうからな!

おあッ
おあッ

余計な事
喋んな!

それと
勘違いすんな
この淫売

俺の今ひとつの役目は
お前に男を
斡旋することだ

そんな
そんな事...
家を継ぐのと
大差ないでは
ないですか!

だが役目を果たさば
揃ってお役御免
お前は家を継がず
あれを娶ってよい

痛いっても
なんど...も

嘘...お
前...の時は
すぐ...果てて

おあッ
おあッ

あたし...
あの時...に

黙ってた...けど

...あのときりって
言った...のに
こんな

おあッ
おあッ

おあッ
おあッ



誰に抱かれたって…

いい

あたひ
ひゃんとやる

ほーっ

らから

おねが…い

いっしょに

きてえ



請けぬなら？

予定通りあれは
生涯妹の分も
忍び働きじや

のたれ死ぬるかな？
他の男に惚れるかな？

但しあれに
この事は
教えるなよ

ほほほほ！



あぁん

あぁん

が、

あは

ん、

ああ…っ

もっとお

もっと

ま〇こ検分してえ

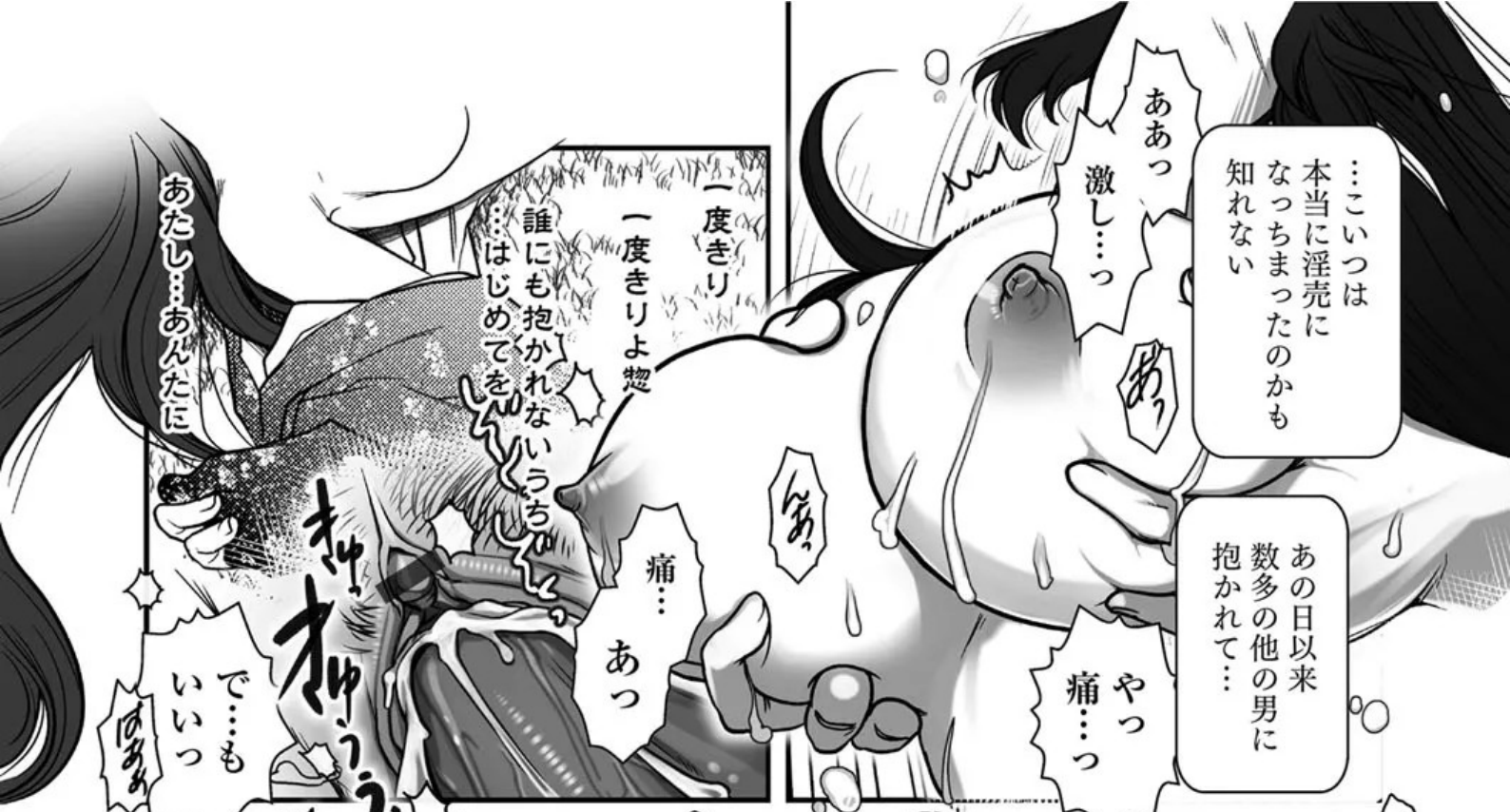
すみずみ…まで

調べてっ

奥っ

奥…

もっとな
突いてええ



…こいつは
本当に淫売に
なっちまったのかも
知れない

あの日以来
数多の他の男に
抱かれて…

ああつ
激し…っ

やっ
痛…っ

一度きり
一度きりよ惣

誰にも抱かれないうちか
…はじめてを

痛…
あつ

あたし…あんたに

おっ!
おっ!

でも
いいっ



きもちい?
もう射精さう…でしょ

中…おつきい

あたしも…
もう…

一緒…きてえ

兎…野

射精して

惣

中

惣の子種
中に出して…っ

きつと
言葉で伝えれば
役目も何もかも捨て
二人で溺れてしまう

だから

だから絶対に
耐え忍んでみせる

地獄でもいつか
こいつと極楽が
見られるならば

なんでもいい
地獄を見ても
なんでもいい

天晴れ!

ではこの二人の身柄
この一条信龍が預かった

ずっと共に
居られるなら!

次の春より
畿内取次役の援けとして
存分に働いて
もらおうぞ!

忍ぶれど艶は★END

忍ぶれど 艶は

第参話

戦国御伽
絵師!!!

晴永牧兎

運命にもてあそばされし
巫女たちの旅路、再び――





信玄様より
このような免許も
賜ったことじゃ

いよいよ
歩き巫女の育成に
励むようにな

なに 人手は
我等からまた
こちらに貸そう
物介も後願の
憂いなく
旅立つが良いぞ

千代女様自ら
おいで頂けるとは
老骨には
及ばぬ点も
ありましようが
精一杯

明けて
永禄7年(1564年)旧暦5月



田鶴も
体気いつけて

怠けずに
働きなね

巫女でない立場で
置いて貰ってん
だからね

みやこの方で
お勤め ええねえ

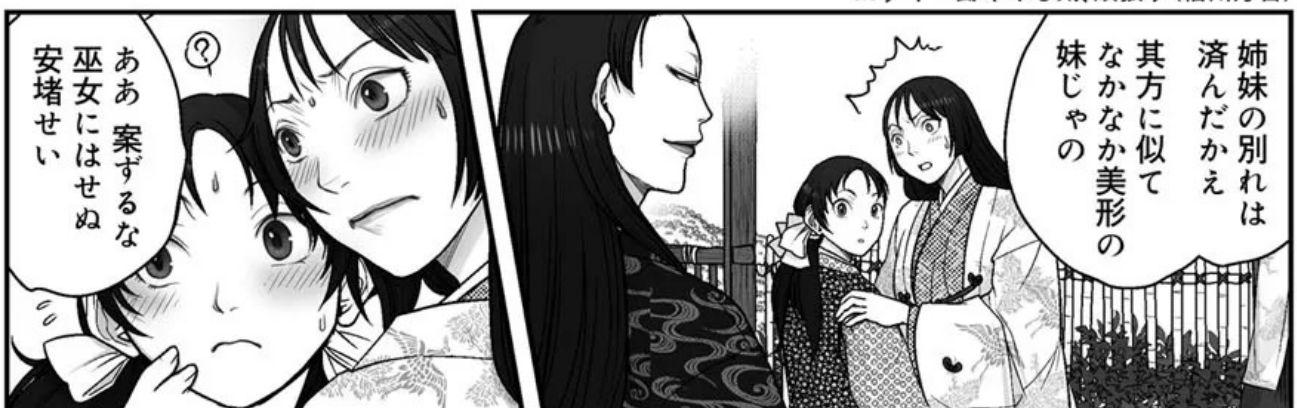
気いつけてね
兎野姉ちゃん
お土産も忘れんでね



お前はすぐの
ある子だから
大丈夫と思うけど
気いつけてねえ

…ああ
みな 元気でな

※づく…働くやる気、頑張り(信州方言)



姉妹の別れは
済んだかえ
其方に似て
なかなか美形の
妹じゃの

ああ 案ずるな
巫女にはせぬ
安堵せい

行って
らっしゃーい!



安岐と志津にも
三つ者の相方がつき
揃って甲府国中まで

そこから三組それぞれの
任地に分かります

兎野と惣介は
畿内取次役である信玄の弟
一条信龍の上京に同行し

同盟国駿河の
田子の浦から船で
西を目指しました



わあ
すごおい!



なんだね
巫女様は船は初めてかい

信濃育ち
だから

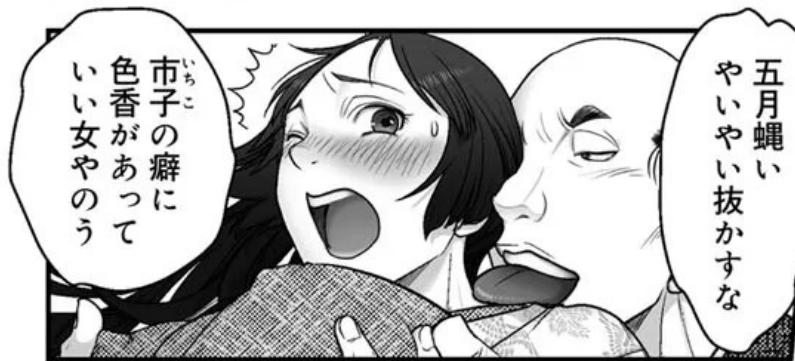
じゃあ景気づけに
一ふし



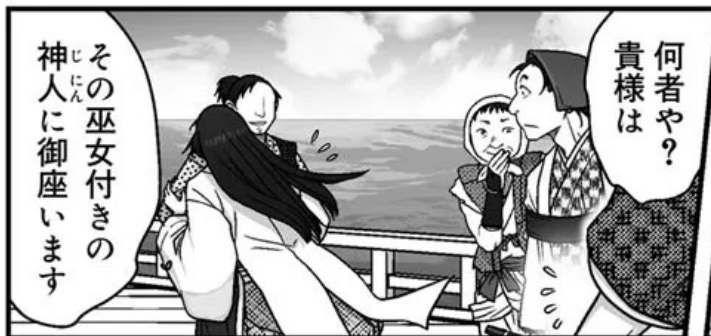
随分はしゃいで
おるのう

いい喉
してなざるねえ





※市子…歩き巫女の別称。口寄せ等行つて回る。



※神人…雑役などを行う下級神職。僧兵のように武装し強訴を行うこともあった。





今年には浅井と織田の妹姫で縁組とか
その着物の商いと番頭に聞きました

桶狭間の後から織田上総は着実に力をつけておるが

…浅井を押さえて京への道を確認するか
厄介な…

※織田上総介。信長のこと。



わかった大儀じゃ
戻らば
労ってやれよ

…は



何…千代女殿も
酷薄な女子よな
お主等の情を
知りながらのう

しかしそれを知って
猶お主等を使うわしも
負けず劣らず…



わしに
出来るのは
これくらい

もう寝る
下がれ



何
もう寝てんの？



ひとが…
体張ってさ…っ

…ずる…い

また先に
寝ちやうなんて



もお

…もつと寄ってよ
狭いのに

※避妊には膣に油紙(御簾紙)を入れるなどした。



お…

起きて…
前に言ったじゃない
して



あいつ下手で
…足りないのよお

お願い
ご褒美…



ん…っ

ん

ふ

ん…っ



声出すんじゃねえぞ
ただでさえおめえ
船乗りどもに
目えつけられて…

派手にしたら
押し入られる

う…ん

ひっ

そ…お



んっ

う…っ

ん

ん…っ



あんな…出発まで
帰ってこなくて

あたし…あたし

お城の…あれから
忘れられ…



あひ…っ

あっ
あっ

くう…

惣…

惣の
ち○ぽ…

やっぱし
いこ…っ



う…兎野



兎野

兎野

兎野…

あっ
すこ…

あたしのま○こ
あなたに
しがみついて…



…っ
…ああ…

も…

もっこ
抱いて

突いて

あたし

溶ける

惣

良すぎて
溶けちゃう



あ
またイク

兎野
声…

ん…っ
そお

ひゅん…
ん…っ

京は
祇園社の御霊会

後の世で言う
祇園祭の準備で
もちきりです

さすが京
朝から賑やかなねえ

あんまり
乗り出すなよ
落っこちるぞ
しかし朝から
あちいな

ねえ後で
あちこち見て
回ろうよ

いいけど
遊びじゃねえぞ
噂を集めにだぞ

わかってるって
わあ
楽しみ

昔みんな
御諏訪様のお祭り
行ったよねえ

くつつくな
あちい

長旅大儀であったな
早速だがこれを
買いに行かせたゆえ
それぞれ取るが良い

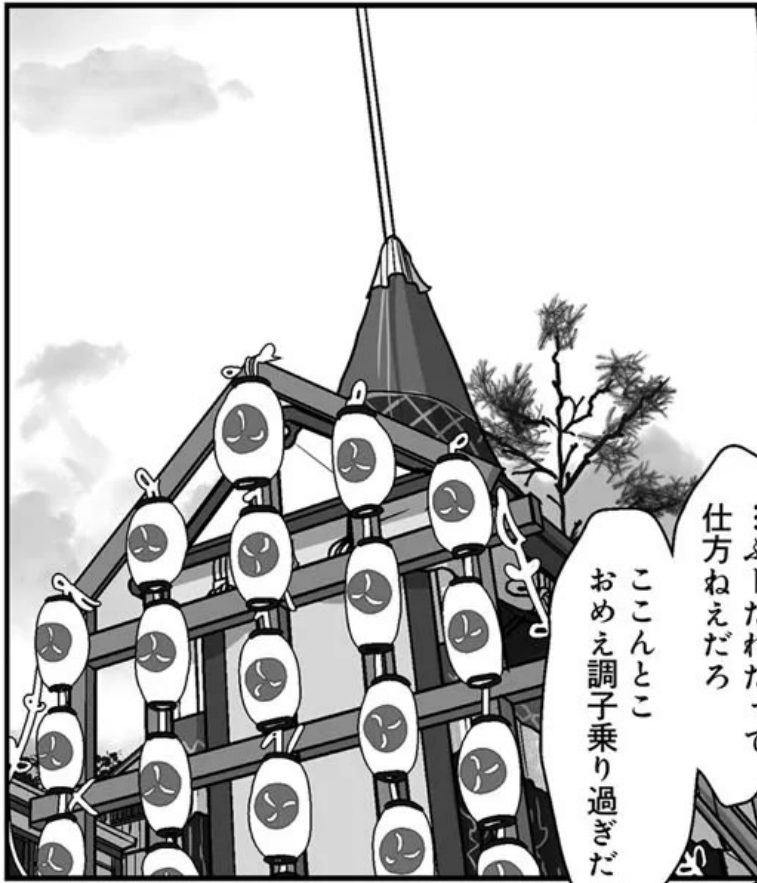
素襖と筆簾

巫女装束の
一揃い
いい生地……!

起きておるか
殿が
揃ってお呼びぞ

今宵は宵山だが
それを着て
お主等はさる方の
邸へ行って欲しい





…ぶーたれたって
仕方ねえだろ
ここんとこ
おめえ調子乗り過ぎだ



場所は
堀川松原下ル

御相手は
当代随一の権勢

まつながだんしやうしやひつ
松永弾正少弼
久秀殿…!



最近勤めに
身が入らぬようだが

まさか否とは
言うまいな?

心して
技を尽くして
伽してきてくれ

言ったら
あん時

おめえだって
誰に抱かれようが
付いて来てつったろが



俺が三つ者なるつった時
気軽に自分もと追って
願い出たてめえを恨め

あれがなきや
千代女様が巫女を
忍び働させようなど
思いつかなんだかも…



でも… あんたは

忍びなんて
んなもんだ



…逃げたところでよ

田鶴が代わりに
なるだけだろうが

…!!
わかつたわよっ!

ひとつだけ
聞かせて

あんた
千代女様と…
してたの

噂…

…何なら相方
代えてもらうか

…だったら
何だってんだよ

つとめ
仕事じゃねえか



うむ
なかなかの舞であった

若君上洛前に
京に参ったもの
殿が今大層
ご不快である手前
おおっぴらに祭見物も
かなわんのよ

一条殿が手配してくれ
良い気散じになったわ

…何じゃ?

…いえ
では手前は…

ふふふ
どきどき
どきどき

ほあ

あ

あ

あ

あ



わたくしは…
この者にしっかと
殿へのご奉仕を
見せつけとう存知ます

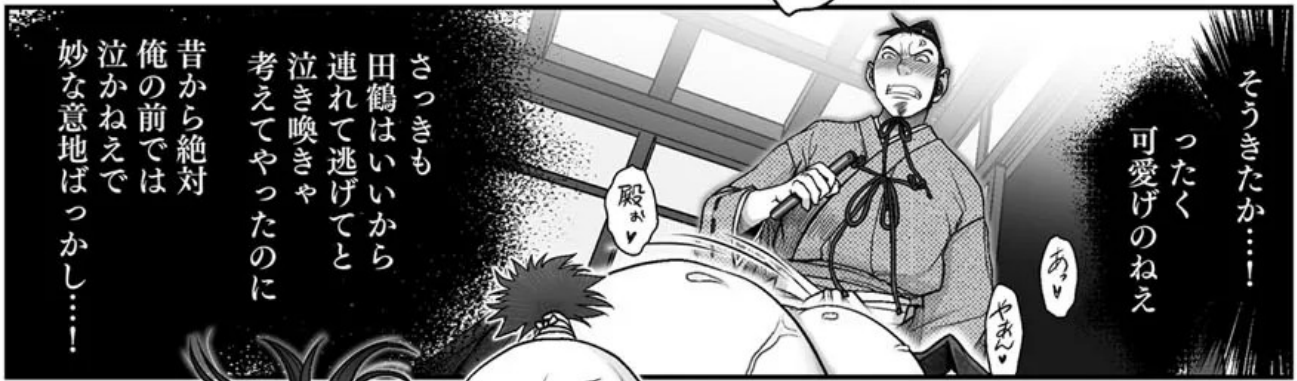
その確認に
遣わされた
者ですもの…!

どうじゃ？ん？



まあ待て
一条殿は
「二人とも良しなに」と
申された

どうせなら共に
愉しんでゆかぬか
折角の祭りの
夜であるからな



そうきたか…!
まったく
可愛げのねえ

さつきも
田鶴はいいから
連れて逃げてと
泣き喚きや
考えてやったのに
昔から絶対
俺の前では
泣かねえで
妙な意地ばっかし…!



身分も
金も
名物も

お家も
女もじゃ!

わしは人の大事な物を見ると
たまらぬ位欲しゅうなる

取り上げて
悔しがる顔が
見とうなる



くははっ
それは面白い

このような凄い目で
睨みつけとる位だ
さぞかしお主を
片時も見ていたかろう



よいか銭別じゃ
この薬は
女の臓を強く
血液を良くする

普段は毎夕一粒
がここぞの時は
三粒飲め



とりあえずそこで
物をおつ勃て
しかと見て居るが良い

何ならまた
笛でも吹いて
景気をつけてくれるか?

はははは



美味そうに：
雁ヶ首が好きか?

もつとでかい
声で言わんと
あやつに届かんぞ?

はははは

それは儂が日頃
房中術で陽物を
鍛えておるからよ

...そうじゃ

先走り
おいひいの
止まら
ないですう
熱くて
硬...っ



そうそう
たつぷり露を
出させておけ

菊門も十分な
おお...良い
吸い付きじゃ



あああ

ちゃんと
ご奉仕しろ!

はげし
あ

そ...
惣



二人がかりで 責め抜くぞ

儂が射精す前 この女が達さば

側女として貰い受け たんと仕置いてやろうぞ



なんだ なんか 変なもの 飲んでんのか!?

ああ

いづく前で 堪え津液を交換し 神気を得る

む 無理 変 壊れ...

おお 極上の津液

※津液...房中術では唾液・愛液・カウパー氏液 他、汗や乳首等から出る気を含んだ液の総称。 性交とて内丹を活性化させ 男女これを交換して陰陽を整え 真人に近づくといい。

これぞ奥義よ

巫女のものなら
一層神気もあるう

おうおう
膾からも良い愛液が



儂をいかせるのが
うぬらの勤めじやろう

ほれもつと
突き上げてみい!

いっ
いっ
いっ

惣…やめて

いっ
いっ
いっ

ああああ…っ!

いっ
いっ
いっ

い…く

おお
肉壁が震えて
嫌々とうねる…

わかるか
これが権力よ

気はたんまり採った

今射精して
精力を浪費はできん
賭けは無しじや

あとは近習らを
とくと接待してやれ!

おお
いい
もう少しじゃ

もう少しで
儂の手に
全て…!!

あ…ひ
ち〇ほ…

いっばいっ

嬉し…
松永…さま
い…





いく...
また...

犯されるの
いいの...っ

お勤め
好き...い

だから

きてえ

おねが...い

平気

あたし...
いい...の

...妙な薬を含んで
居ったからな
今日は放してやろう



松永久秀...
あいつにだけは
渡すものか

畜生

畜生

この一月後
三好家当主長慶死亡



しかしこの女気に入った
また召そうも知れぬ

目印にその緋袴で旅せよ

易々いかぬ様鍛えてやれ

側女に取られとう
なければな!



三好家宰相である久秀は
実質的に主家の
のつとりを果たします

そして翌年には
室町將軍をも弑逆し
天下を牛耳ることに
なるのです

忍ぶれど艶は★END